

蕃務從事大正臺灣總督府警視特別任用令改正件

明治四十四年七月五日決議

勅令第 號

蕃務ニ従事スル臺灣總督府

警視特別任用令

第一條 蕃務ニ従事スル臺灣總督府

警視ハ五年以上蕃務又ハ警察事務

ニ従事シ現ニ判任官二級俸以上ノ

職ニ在ル者ノ中ヨリ文官高等試験

委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコ
トヲ得

前項ノ規定ニ依リ任用セラレタル
者ハ高等官三等ニ陞叙スルコトヲ
得ス

第二條 蕃務ニ従事スル臺灣總督府
警視ハ當分ノ内陸軍佐尉官ノ中ヨ

リ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ
之ヲ任用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ任用セラレタル
者ノ官等ニ付テハ高等文官轉任ノ
例ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府警視特別任用令：依り任用セラレタル臺灣總督府警視ニハ第一條第二項ノ規定ヲ準用ス

参照

○蕃務ニ従事スル臺灣總督府警視特別

任用令

明治四十二年十月
勅令第百八十六號

第一條 蕃務ニ従事スル臺灣總督府警視ハ五年以上蕃務又ハ警察事務ニ従事シ現ニ判任官二級俸以上ノ職ニ在ル者ノ中ヨリ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ任用セラレタル者ハ高等官三等ニ陞叙スルコトヲ得ス

第二條 蕃務ニ從事スル臺灣總督府警視ハ當
カノ内陸軍佐尉官ノ中ヨリ文官高等試験
員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ任用セラレタル者ノ官等
ニ付テハ高等文官轉任ノ例ヲ準用ス

附 則

(中略)

臺灣總督府警視特別任用令ハ之ヲ廢止ス
前項ノ特別任用令ニ依リ任用セラレタル臺灣
總督府警視ハ本令ニ依リ任用セラレタルモノト看做ス

ノル臺灣總督府警視ハ第一條第二項ノ規定
ヲ準用ス

○高等官官等俸給令 明治四十三年三月
勅令第三百三十四號

第四條 初メテ高等文官ニ任セララルル者ノ官
等ハ六等以下トス

高等文官ニシテ退官シタル者再ヒ高等文官
ニ任セララルル場合ニ於テハ其ノ官等ハ前官
ノ官等以下トス但シ前官官等在職年數二年
ヲ超エタル者ハ前官ノ官等ニ一等ヲ進ムル

コトヲ得

前官ノ官等七等以下ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス陞シテ六等官ニ至ルコトヲ得

第五條 高等文官ノ官等別ニ進級ノ例ヲ定メタルモノ及七等以下ノモノヲ除キ在職二年ヲ超ユルニ非サレハ陞叙スルコトヲ得ス

日西修好交通條約御批准ノ件審査報告

謹テ今回御諮詢ノ日西修好交通條約御批准ノ件ヲ審査スルニ本條約案ハ昨年七月帝國政府ヨリ廢棄ヲ通告シタル現行日西修好交通條約ニ代ラシメムカ爲メ去五月十五日兩國全權委員ノ署名調印シタルモノニシテ之ヲ現行ノ條約ト對比シ兩者相違ノ主ナル點ヲ舉クレハ(一)永代借地權ノ確認ニ關スル規定ヲ削除シタルコト(二)西國船舶カ大阪新瀉及夷港以外ノ帝國開港場間ニ積荷ヲ運搬スルコトヲ得ルノ規定

ヲ刪除シタルコト(三)其他宗教ノ自由ニ關スル
規定ハ保障ノ必要ナシトシ工業所有權ノ保護
ニ關スル規定ハ兩國共ニ萬國工業所有權保護
同盟條約ニ加入セル以上ハ更ニ之ヲ修好交通
條約ニ規定スルノ必要ナシトシ何レモ之ヲ削
除シタルコト(四)不動産ノ取得ニ關シ國內法ノ
條件及制限ニ從ヒ相互ノ條件ニ依リ互ニ最惠
國待遇ヲ許與スルノ規定ヲ新設シタルコト(五)
會社及組合ノ相互承認ニ關スル新規定ヲ置キ
タルコト等ナリトス輸入税ニ關シテハ現ニ修

好交通條約ノ外別ニ特別通商條約ナルモノア
リテ之ヲ規定シ該特別通商條約ハ今回帝國政
府ニ於テ其ノ廢棄ヲ通告セサリシカ故ニ輸入
税ニ關シテハ將來引續キ相互主義ニ基ク現行
特別通商條約ニ依ルヘキモノトス
要スルニ本條約案ハ相互對等ノ主義ニ基キ日
西兩國間ノ修好交通上ノ關係ヲ明確ニシ相互
ノ利益ヲ増進セムトスルモノニシテ其ノ條項
中別ニ支障ノ點アルヲ見サルヲ以テ可決セラ
レ然ルヘシト認ム

右謹ヲ審査ノ結果ヲ報告ス

明治四十四年六月三十日

樞密院書記官長河村金五郎

樞密院議長公爵山縣有朋殿

日本瑞典間通商航海條約及日本瑞典間
特別相互關稅條約御批准ノ件審査報告
謹テ今回御諮詢ノ日本瑞典間通商航海條約及
日本瑞典間特別相互關稅條約ヲ審査スルニ現
行通商航海條約ハ或ハ片務的ノ規定ヲ存シ或
ハ不要ノ條項ヲ存スルカ故ニ之ヲ改定スルノ
目的ヲ以テ昨年七月他ノ諸國ノ條約ト共ニ之
カ廢棄ヲ通告シタルモノニシテ其ノ後兩國全
權委員ハ互ニ交渉商議セルノ結果本案ヲ締結
調印シタルモノナリ而シテ其ノ現行條約ト異

ル點ハ(一)現行條約ハ輸入税ニ關シ最惠國待遇ヲ保障スルノ條規ヲ存スルモ新條約ニ在テハ輸入税ハ今後兩國間ノ特別取極又ハ各自ノ國內法ニ依リ之ヲ定ムルコトトシ之ヲ通商航海條約ヨリ獨立セシメ別ニ日本瑞典間特別相互關稅條約ヲ締結シ兩國ノ製產物ハ互ニ最低率ノ關稅ヲ課シ自國品ニ比シ多額ナル租稅庫敷料等ヲ課スルコトナク且特別ナル場合ヲ除クノ外製產原地證明書提出ノ義務ヲ免除シ同時ニ兩國特種ノ場合ニ於ケル除外例ノ條規ヲ約

定シ(二)現行條約ハ沿岸貿易ニ關シ瑞典ノ船舶カ日本帝國ノ開港場間ニ積荷ヲ運搬スルヲ許スノ特例ヲ存スルモ新條約ニ於テハ各自ノ國法ノ定ムル所ニ依リ且最惠國待遇ヲ保障スルニ止メタル等ヲ主ナルモノトシ其ノ他(三)現行條約中ノ良心ノ自由禮拜埋葬ノ權利ニ關スル規定ハ憲法上當然ノ事ナルカ故ニ又工業所有權ノ保護ニ關スル規定ハ兩國共ニ其ノ保護同盟ニ加入スルカ故ニ何レモ之ヲ削除シ(四)不動産ノ取得ニ關シ國內法ノ條件及制限ニ從ヒ相

互ノ條件ニ依リ最惠國待遇ヲ保障シ(五)會社及組合ノ相互承認ニ關スル規定ヲ加ヘタル等曩ニ御諮詢アリタル日英日米間ノ新條約ト同様ニシテ兩國對等ノ主義ニ基キ交通通商ノ關係ヲ明確ナラシムルモノナルヲ以テ可決セラレ然ルヘシト認ム

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

明治四十四年六月三十日

樞密院書記官長河村金五郎

樞密院議長公爾山縣有朋殿

日露逃亡犯罪人引渡條

御批准ノ件審査報告

謹テ今回御諮詢ノ日露逃亡犯罪人引渡條約御批准ノ件ヲ審査スルニ本案ハ去ル四十一年中露國政府ノ提議以來種々交渉ヲ重子本年六月一日ヲ以テ兩國全權委員間ニ調印ヲ了シタルモノニ係リ兩國ハ他ノ一方ノ法權内ニ於テ罪ヲ犯シタル刑事被告人又ハ犯罪人ヲ互ニ引渡ス可キコト並ニ其ノ條件制限及手續等ヲ約定シ以テ互ニ法權ノ擁護ニ助力セムトスルモ

ノニシテ何等支障ナシト認ム

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

明治四十四年六月二十九日

樞密院書記官長河村金五郎

樞密院議長公爵山縣有朋殿

蕃務ニ従事スル臺灣總督府警視特別

任用令改正ノ件審査報告

謹テ今回御諮詢ノ蕃務ニ従事スル臺灣總督府
警視特別任用令改正ノ件ヲ審査スルニ臺灣蕃
地開發ノ手段タル隘勇線ノ前進ハ多ク戰鬥状
態ヲ伴フカ故ニ之ニ従事スル警察職員、軍事
的行動ヲ取ルノ必要アリ從テ之カ指揮監督ノ
任ニ當ル者ハ戰術砲術等ニ關シ特別ノ知識ヲ
要スルコト多シ依テ從來總督府陸軍部附將校
ヲステ蕃務署ノ囑託ト為シ前進隊ニ附屬セシ

メタルモ囑託トシテハ警察官吏ヲ指揮スルノ
權能ヲ有セス不便歟カラサルヲ以テ茲ニ任用
令ヲ改正シテ當分ノ内陸軍佐尉官ノ中ヨリ警
視ニ任用シ得ルノ途ヲ開カムトスルモノニシ
テ事情已ヲ得サルモノト認ム
右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

明治四十四年六月二十八日

樞密院書記官長河村金五郎

樞密院議長公爵山縣有朋殿